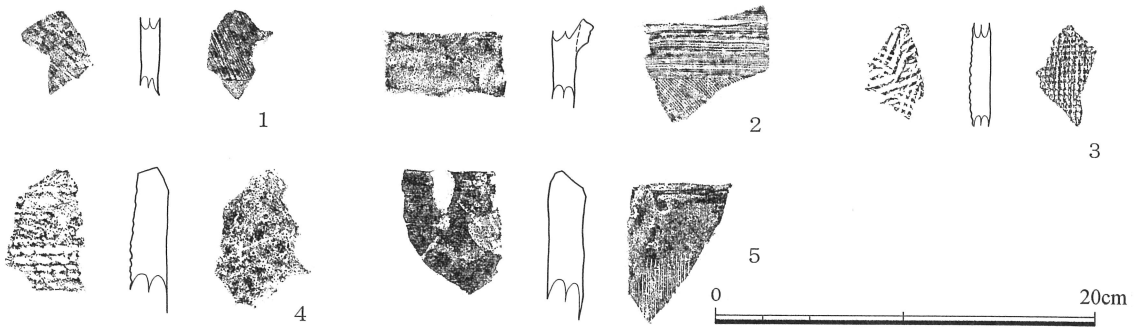



第32図　清寧天皇陵　出土品実測図（1/4）

れなかった。いずれにしろ、Ⅵ層からも埴輪・瓦など遺物が出土することから、確認したすべての盛土は、本陵築造当初のものでないことは明らかである。これらの盛土下、標高39.8m付近でⅦ層とした均質な砂質土が、今回確認した最下層であるが、部分的な確認に止まったため、性格は明らかではない。しかし、少なくとも工事範囲内には、本来の外堤など、明確な築造当初の遺構は認められないものと判断される。

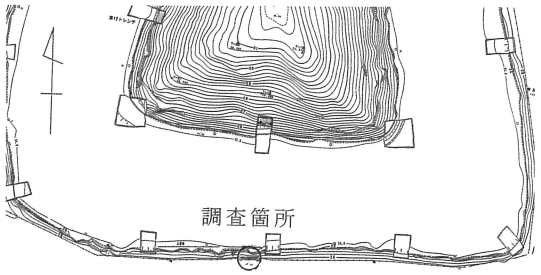
遺物は、外堤盛土（Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ層）から、総数54点出土した。埴輪・瓦を中心に、須恵器・陶磁器の細片などが少量含まれている。そのうち、５点を図化した（第32図）。１は須恵質の埴輪で、外面は斜め方向の板ナデ調整、内面は粗い指ナデ調整である。２は円筒埴輪片と思われ、外面は斜め方向のハケ調整、内面は指ナデ調整である。３は須恵器片で器種は特定できない。外面には交差する平行叩き痕、内面には同じく交差する平行当具痕が認められる。４は平瓦で外面は摩滅のため調整不明で、内面は縄目叩き痕が認められる。５は平瓦で、工具による面取り調整を顕著に残す。

以上の結果を踏まえ、工事は予定どおり実施した。　（清喜裕二）

## 玉津陵墓参考地整備工事区域の立会調査

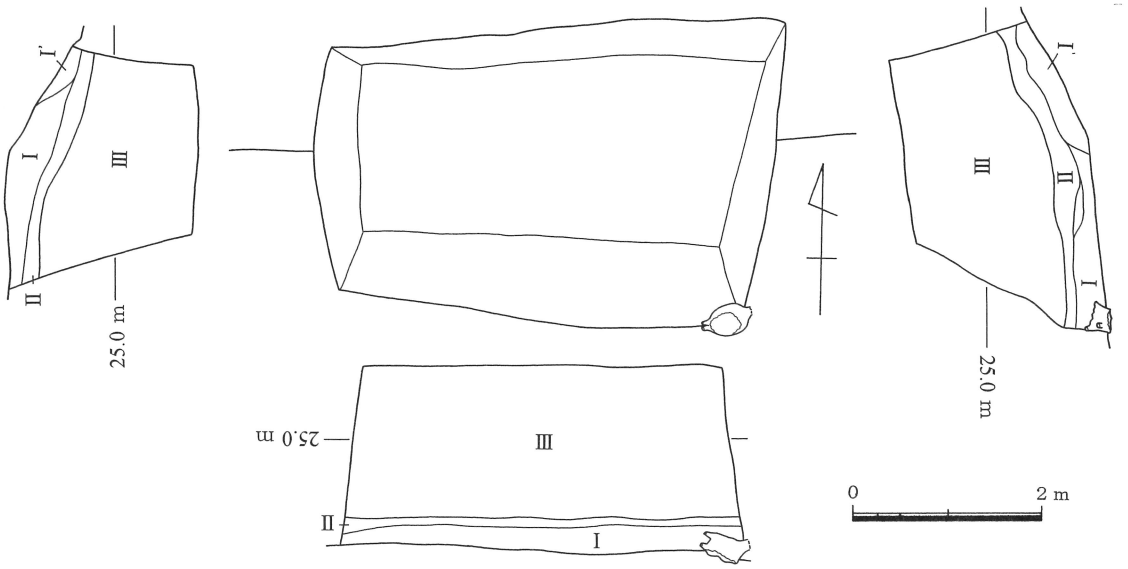
玉津陵墓参考地は、神戸市西区王塚台３丁目に所在する、墳丘長約70mの前方後円墳である。本陵墓参考地の墳丘裾、外堤内法裾が、経年による波浪によって浸食と崩壊が進んだため保護工事が計画され、そのための事前調査を平成12年度に実施し、その成果は本誌第53号に報告したところである。

平成13年度には前述の護岸工事の実施と併せて、前方部外堤上にある正面鉄扉改修工事が実施されたので、支柱部分の掘削にあたって、平成14年２月12日から15日までの４日間立会調査を実施した。以下、その立会結果について報告する。




第33図　玉津陵墓参考地
調査箇所位置図（1/1000）

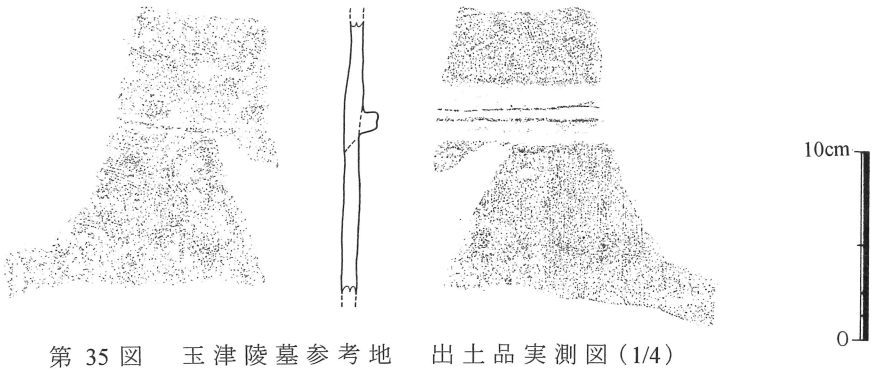
調査箇所は前方部の正面であり、平成12年度の事前調査において第23トレンチを設定した付




第 34 図　玉津陵墓参考地　調査箇所平面図および断面図（1/80）

近である（第33図）。調査範囲は、東西約4.9m、南北約3.3mであり、深さは南側で約2.0m、北側（濠側）で約1.3mである。発掘箇所の土層状況は、地表から約30cmまでは、公園整備時の盛土（Ⅰ層）と、昭和45年に実施された浚渫土による盛土（Ⅰ′層）が確認された。その下には公園が整備されるまでの旧地表面が確認され（Ⅱ層）、その下はすぐ黄褐色を呈する非常に堅く締まった粘質の地山（Ⅲ層）となる（第34図）。この調査において、埴輪列、葺石などの遺構は全く検出されなかった。

調査の際、第35図に示した埴輪片が出土した。出土した層位は、Ⅰ層とした公園整備時の盛土中であり、この状況から本来この場所に樹立されていたとは考えられず、盛土中に混入したと判断した。埴輪は数片に割れた状況で出土したが、円筒埴輪の胴部であろうと考えられる。内外面の調整方法、器厚（1cm内外）、突帯の形状（断面がやや浅いM字形を呈する）などの諸特徴から、本陵墓参考地に伴う埴輪であると判断した。この埴輪以外に、遺物は出土しなかった。上記の結果を踏まえ、工事は予定通り実施した。護岸工事では掘削をしなかったので、一切遺構、遺物は出土せず、予定通り施工した。　（徳田誠志）




第 35 図　玉津陵墓参考地　出土品実測図（1/4）